

年

組 名前

2020年9月5日付

和菓子店 感謝の再出発



尾鷲の店主夫婦感染45日ぶり

新型コロナウイルスに感染し、回復した三重県尾鷲市中井町の村田晋さん(五七)と由美さん(五四)夫婦が四日、自宅で営む和菓子店

不安・中傷 常連の励まし支え

「多くの人に感謝したい」と笑った。

「再開できて、よかったね」。常連客のねぎらいの声に村田さん夫婦は「ありがとう」と繰り返した。

一九三〇(昭和五)年創業で、晋さんは三代目。熊野古道に近い旧街道に店を構え、昔ながらの菓子を晋さんが手作りし、由美さんが接客する。

由美さんの感染が分かった日から店は休業。その日の検査で晋さんから家族四人は陰性だったが、五日後に晋さんが発熱。再検査で陽性と判定された。

晋さんは四〇度近い高熱と呼吸難に、死を覚悟することもあったという。二十日間にわたって入院し「出口のない真っ暗なトンネル

で、さまよっているようだった」。

心の支えはスマートフォン。「頑張れよ」と友人やお客さんからメールが届き、電話がかかってきた。

「菓子を食べてうつるんじゃないか」「コロナにかかったらどうするんだ」。由美さんの感染直後は、店にそんな匿名の電話も相次いだ。晋さんは「気にしても仕方がない」と前を向いた。

由美さんは重症化はせずに回復。晋さんは八月十七日に退院し、保健所から店の再開を許可された。今月一日に店内を消毒し、大安心のこの日に再開。晋さんは「多くの方の支えがあって再開できた。自分の経験を生かし、新型コロナに感染して困った人がいれば力になりたい」と話した。

営業再開を喜ぶ村田晋さん(五七)4日午後、三重県尾鷲市の朝日饅頭本舗で

(間宮大貴)

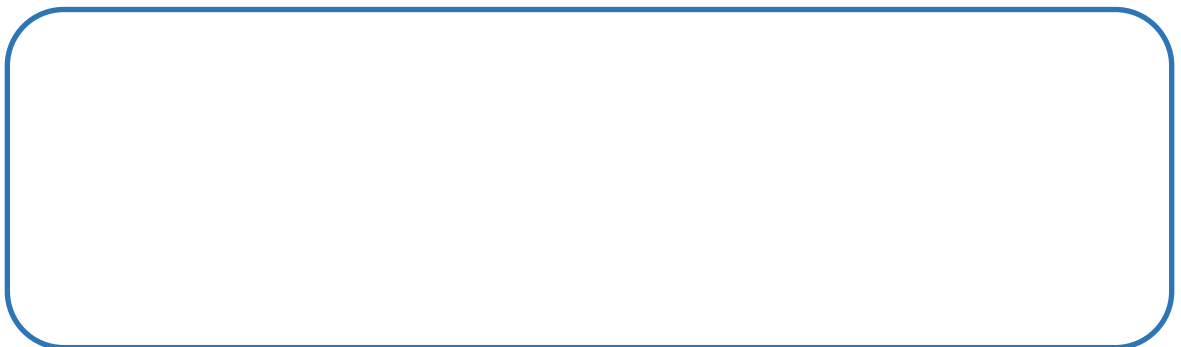
問1：村田さんが、つらかったことは、どんなことだったでしょう。



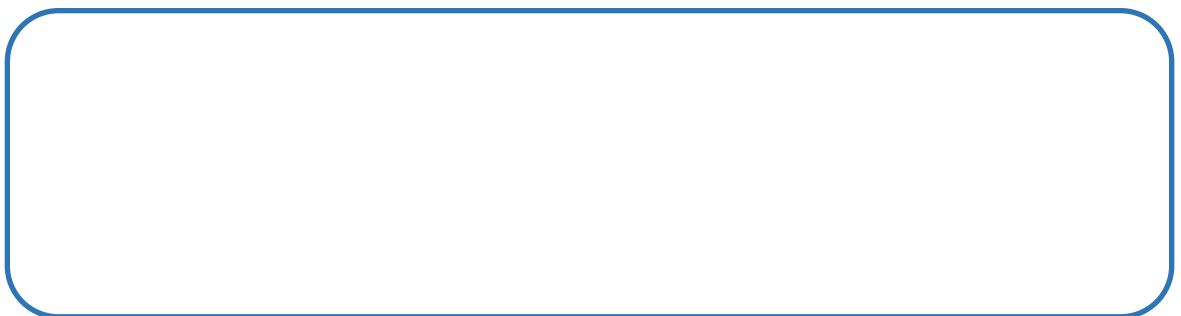
問2：村田さんを励ました人は、どんな思いだったでしょうか。



問3：「多くの人に感謝したい」と思うようになったのは、なぜでしょう。



問4：家族・友達の発表を聞いて、どんなことを考えたのか書きましょう。



【活用にあって】

差別や偏見のない社会の実現に関する内容です。

コロナ禍。妻、そして自分自身の感染、病との戦い。
店の休業。店への匿名電話。つらいことばかりです。

そんな村田さんを励ます人がいます。友人やお客さんです。どんな思いで励ましたのでしょうか。弱い立場の人を思いやる優しさ、強さについて考えます。

村田さんは、「多くの人に感謝したい」と言います。心の支えになったのは、友人やお客さんからの励ましのメール、電話です。同じ電話でも、心ない匿名電話とは天と地ほどの差があります。

最後に、家族や友達の発表を聞いて、自分の考えを今一度振り返ります。書くことで自分の考えを明確にし、これからの生き方について考えを深める学習にしたいと思います。

参考として、2020年9月3日付尾張版の記事を次ページに掲載します。

唐突な告白に一瞬、戸惑った。

「実はうちの息子がコロナにかかっちゃってね」。取材先の男性と、電話で話していた際、突然、打ち明けられた。男性は息子と同居していたが、幸いにも感染はしていなかったという。

後日、男性の元を訪ねた。男性は隠し立てなく、息子が感染し、自らが濃厚接触者であることを、知り合いに明かしているという。

「差別が怖くないですか」と聞いた。男性は「相手に弱い人の立場を理解してもらいたい。隠し続



弱い立場

けて、こそこそ言われるのが一番嫌だからさ」と語った。

感染者や濃厚接触者が、差別的な扱いを受けているという話をよく聞く。今や、病状よりも、社会的に孤立するデメリットの方が大きい印象すら受ける。

男性のように、弱みをオープンにできる、強い心を持つ人間はそう多くはないだろう。ただ、「弱い立場の人を思いやる」ことは誰だってできる。当たり前前の道徳をいま一度、心掛けたい。

(深世古峻)